

金融論（第7回）
- 主な金融市場2：短期金融市場

17.10.12
(安孫子)

1. 参考文献

- ・東短リサーチ(株)編、『新・東京マネー・マーケット』有斐閣、2002年
- ・加藤出、『日銀は死んだのか？ 超金融緩和政策の功罪』日本経済新聞社、2001年
- ・日本銀行『金融経済統計月報』(旧「日本銀行関連指標および主要金融経済指標」)、毎月

2. コール市場

- ・日々の資金調節のための短期の取引：超短期(O/Nもの、T/Nなど) タームもの
近年では、特に期間の短い「日中コール」も登場している。
- ・有担コール市場：担保のついた市場(リスク限定) 97年末 8.7兆円 05/9月末 13.1兆円
- ・無担コール市場：担保のつかない市場(1985年創設) " 30.6兆円 " 5.9兆円
量的金融緩和政策(2001年3月)までは、日本銀行の金利誘導の対象。なお、実質ゼロ金利の下で、無担コール市場の残高は大幅に減少(02年10月に3.5兆円まで低下、その後若干)。
- ・短資会社の役割：資金を貸し借りする際のブローカー
近年では利幅が薄くなり、短資会社の統合が進む。短資抜きでの直接取引(DD取引)も。
- ・決済は**日本銀行当座預金**で行われる(例：出し手の口座 短資の口座 取り手の口座)
- ・資金の出し手と取り手の類型(出し手：信託、地銀、信金、農林系 取り手：都銀、外銀、長銀)

3. 手形市場

- ・コール市場よりも長い資金取引(1週間~3か月程度)：1971年に設立
優良な民間債務を担保とする取引(有担コール市場の機能を分化させたもの)
- ・手形オペ(日本銀行の資金供給・吸収の有力な手段)+プロパー取引の2類型
現在では商業手形を使う機会が減少 事実上は「手形オペ」のみで使われる(プロパー取引は殆んどない)

4. その他の短期金融市場

- ・TB(割引短期国庫債券)市場：短期(3か月、6か月、1年)の借換え債、利払いなし。
1986年2月から発行開始・近年急速に規模拡大、97年末 13.1兆円 05/9月末 48.9兆円
- ・FB(政府短期証券)市場：短期の資金繰り債(原則13週間)、「糧券+為券+蔵券」を一本化。
昔は日銀が引受 99年度より価格競争入札。97年末 29.6兆円 05/9月末 91.0兆円
- ・公社債現先市場：公社債の買戻し条件付の売りまたは売戻し条件付きの買い。
日本で最初のオープン市場(戦後早くから始まる) 05/8月末 25.1兆円
- ・債権貸借(レポ)市場：債権の消費貸借取引、現金担保付取引が多い 資産運用と同じ効果。
1996年4月に創設。急速に規模が拡大(O/Nものが多い) 02/3月末 45.6兆円
- ・CD(譲渡性預金)市場：(negotiable) certificates of deposit、譲渡が可能な預金。
1979年創設(最初の自由金利の預金<当初は色々な制約 現在は廃止) 05/8月末 30.5兆円
- ・CP(コマーシャルペーパー)市場：企業が発行する無担保の約束手形
1987年創設(当初は厳しい発行要件 現在は廃止) 銀行等引受分 05/8月末 16.5兆円

以上